

税がつなぐ、僕たちの生活

宇和島市立三間中学校 3 年 二宮 悠輔

当たり前にあるようで、僕たちの生活に無くてはならない「税」。僕たち学生が払っている税といえば消費税ぐらいだが、様々な場面で僕たちの生活を支えている。例えば教育費。義務教育である、小・中学生の授業料や教科書の代金が税金によってまかなわれている。このため僕たちは学校で、不自由なく学習に取り組めるのだ。当たり前にあるようだが、その中には本当に多くの方の苦勞が詰まっていると思う。だから僕たちは、感謝して教科書を使わなければならない。

だが最近、テレビやインターネットなどでよく、「消費税を引き下げろ」や「消費税を廃止しろ」という声を聞く。僕も初めは、消費税が無くなれば楽だしいいのではないかと考えていた。しかし、税の大切さを知った今、本当に消費税を廃止してもいいのかと疑問が湧いた。その疑問を解消するため、インターネットで調べていると、面白いサイトを見つけた。それは、「世界一幸せな国フィンランドの仕組み」というサイトだった。最初にその記事を見たとき、僕はどういう意味なのか、全く理解できなかった。なぜならそこには、「フィンランドは税負担率が日本の倍以上だが五年連続で世界一幸福度が高い国」と書かれていたからだ。僕はどうしてだろうと不思議に思った。消費税が引き下げられることで、景気が良くなるのではないかと考えていたからだ。詳しく見てみると、フィンランドでは小学校から大学までの教育費が無料で、ペットボトルやビンをスーパーに返すとお金がもらえるという制度までであると分かった。この事実を知って僕は、日本とフィンランドでは、税に対する根本的な考え方が異なっているのではないかと考えた。フィンランドの人々は、税を払うことでよりよい社会、よりよい暮らしにしたいと考えている。一方日本人は、言われるがまま嫌々支払っている人もいる。この違いなのではないか。僕の好きな言葉の中に、「情けは人のためならず」というものがある。これは、人のために何かをすると、巡り巡って自分のもとへ返ってくるという意味の言葉だ。税はまさしくこれなのではないかと僕は思う。自分が税を納めることで、病気の人や子供、高齢者の方などを助けることができる。そして自分が困った時、誰かの支払った税によって助けてもらうことができる。そうやって見えないところで、人々はつながっている。税は僕たちをつなぐ架け橋なのだ。

このように税は無くてはならないものだと思うが、正直消費税の引き下げがいいことか悪いことか、僕には分からない。ただ、税によって僕たちの生活が成り立っていることは確かだ。だから、少しでも多くの人が幸せに暮らせることを、そして、それがいつか自分に返ってきてくれることを願って、これからも税を納めていきたい。